

第 3 期米沢市教育・文化計画の施策体系における現状と課題（学校教育課）

◎ 基本方針 1 児童生徒の学力向上と自立に向けた教育環境づくりの推進

○ 確かな学力の育成

(1)

【実施事業】

- ・ 探究型学習の充実

【現状】

- ・ 年間各校 1～3 回程度、校内授業研で指導主事が助言を行い、探究型学習の推進に努めている。

【課題】

- ・ 探究型学習が各校で行われ、児童生徒の学習に対する関心や意欲は高まっているが、知識、技能を活用力に結びつけていく授業改善が必要である。

(2)

【実施事業】

- ・ 全国学力・学習状況調査、山形県学力等調査、全国標準診断的学力検査（NRT）の実施と分析

【現状】

- ・ 全国学力・学習状況調査（小 6・中 3 対象）及び山形県学力等調査（小 5・中 2 対象）を実施・分析した結果、学習状況調査については、全国や県を上回る項目も多いが、学力については全国や県を下回っている。全国標準診断的学力検査（小全学年実施・中 1，2 年実施）については、全国を上回っている。基礎基本は全国や県並みに定着していると言えるが、活用力は全国や県を下回っている教科が多い。

【課題】

- ・ 基礎基本の知識や技能を活用する力に課題がある。各種調査や検査の結果を分析し、基礎基本の習得は今後も図りながら、活用力の育成を目指した授業に改善していく必要がある。

(3)

【実施事業】

- ・ 教育研究発表会の実施

【現状】

- ・ 全教職員が自校の教育活動や自らの指導に生かすことを目的に、各小中学校の特色ある研究や実践を共有する貴重な機会となっている。

【課題】

- ・ 共有することが目的ではなく、各校の教育活動や個人の実践につなげ、児童生徒の指導に生かしていくことが目的であることを再度確認していく必要がある。

(4)

【実施事業】

- ・ 米沢市理科センターにおける各種事業の実施

【現状】

・モバイルキッズ・ケミラボ、科学教室を実施し、多くの児童生徒が参加することで、科学への興味関心を高めることに繋がっている。

【課題】

・参加する児童生徒はリピーターが多く、固定化されている面も見られるため、広報方法を工夫するなどして、参加者の裾野を広げていく必要がある。

○ 郷土愛を育む教育の推進

(1)

【実施事業】

・副読本や郷土資料の作成、編集

【現状】

・社会科副読本「わたしたちの米沢市」は、現在の学習内容に合わせて小改訂を繰り返して適切な資料がまとめられ、地域に関する授業で大いに活用できている。

【課題】

・特別の教科「道徳」の教科書による指導計画を中心に、道徳資料「ふるさと米沢の心」を効果的に活用できる指導計画や学習場面を検討していく必要がある。

(2)

【実施事業】

・沖縄市・高鍋町小学生交流事業、東海市中学生交流事業の実施

【現状】

・両市町の自然、文化、歴史、産業に触れ、相互理解と親愛の情を深め、郷土を愛する広い視野に立った児童生徒の育成につながっている。

【課題】

・交流事業に参加できる人数は限られているため、学んだことを多くの児童生徒に還元していく場の設定が必要である。

◎ 基本方針3 子どもたちが健やかに成長する環境づくり

○ 学校不適応の未然防止の推進

【主な実施事業】

- ・スクールガイダンスプロジェクトVIの実施
- ・教育相談員・適応指導員・適応指導補助員の派遣
- ・スクールソーシャルワーカーの配置

【現状】

- ・適応指導教室を開設し、不登校児童生徒の学校復帰に向けた支援を行うほか、不登校対策専門員、教育相談員により保護者からの教育相談活動をしている。
- ・中学校には教育相談員及び適応指導員、小学校には適応指導補助員を配置し、要支援指導生徒の直接指導、担任支援活動を行っている。
- ・スクールソーシャルワーカーを配置し、不登校傾向の児童生徒の生活環境を調整する相談活動を行っている。

【課題】

・平成30年度の米沢市児童生徒の不登校出現率は、県平均より高く、全国平均よ

り低い。平成 28 年度以降、小中学校における不登校出現率が年々高くなっている。

- ・不登校の開始時期は、小学校は低学年、中学校は 1 年の出現率が高い。進学等による学習環境の変化、人間関係の変化に子ども自身が対応できるようサポートする。

- ・不登校のきっかけは、小中学校ともに、友人関係をめぐる問題、家庭に関わる問題、学業不振が多い。しかし、きっかけが不明なものも多く、より正確な児童生徒理解が求められる。

○ 米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画」の検討及び推進

【主な実施事業】

- ・適正規模・適正配置推進事業
- ・学校統合推進事業

【現状】

- ・適正規模・適正配置検討委員会の開催や基本計画について市内 17 地区で説明会を開催した。また「米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画」PR用パンフレットを作製し市内全戸配布している。

- ・平成 31 年度には南原中学校と第二中学校を統合、令和 3 年度には関根小学校と松川小学校、関小学校と南原小学校の統合を予定している。

【課題】

- ・複式学級を持つ小学校の統合について地域との協議を進めていくとともに、中学校の統合に向けて具体的な検討を進めていかなければならない。